

満月を過ぎると、日に日に月はダイエットしていきます。ダイエットしながら、少しずつ東の空から昇ってくる時刻も遅くなります。一日あたり約50分ずつ遅く昇ってくるので、満月を過ぎても月見をしたい人は、少し待つことになります。そこで、昔の人は、満月後の月を独特の名で呼んでいました。

満月（十五夜）

十六夜（いざよい）

立待月（たちまちづき）＝立って月の出を待つ

居待月（いまちづき）＝座って月の出を待つ

寝待月（ねまちづき）＝寝て月の出を待つ

更待月（ふけまちづき）＝夜が更けるまで月の出を待つ

何とも風雅な名称ですね。その「更待月」を群馬県の藤岡市の郊外で観ました。昇ったばかりの月で、真っ赤な魔女の眼のように見えました。

（2023年12月上旬／群馬県藤岡市郊外）

